

平成22年5月5日現在

研究種目：基盤研究 (C)
 研究期間：2007 ～ 2009年度
 課題番号：19520447
 研究課題名（和文）第二言語習得の「学習者セオリー」に関するライフストーリー研究
 研究課題名（英文）Life-story-based study on 'learners' theories' in second language acquisition
 研究代表者 海野 多枝 (UMINO TAE)
 東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授
 研究者番号：00251562

研究成果の概要（和文）：

本研究は、自然習得環境における日本語の第二言語習得過程を「学習者セオリー」という新たな切り口から捉え、異なる学習者の第二言語習得過程に影響する諸要因を明らかにし、状況論的観点から考察を加えたものである。特に、個別的な学習者セオリーの記述はもとより、ライフストーリー・インタビュー法による長期的な変容過程に影響する諸要因を捉えるとともに、特定の状況下における言語運用と学習者セオリーの関係を理解することで、総じてこの問題をマクロとミクロの両面から捉えるべく研究を設計した。本研究では、従来取り上げられることの少なかった日本語学習者に焦点を当て、外国人留学生と地域在住の外国人学習者を主たる対象とし、海外留学中の日本人学習者、外国人を支援するボランティアのデータもあわせて収集することでこの問題を多面的に考察した。これらの多様な文脈における学習者の習得過程を総合することにより、狭義の言語処理過程を超えて、より広い通時的・共時的文脈の中で起こる個人の変容過程としての第二言語習得過程に焦点を当て、従来のインプット-インタラクション-アウトプット型の心理言語学的モデルで欠落する側面を汲み取る新たなモデル構築への第一歩を築いた。今後は、本研究の成果を国際的な共同研究の形で発展させ、国際的な出版物への公刊、応用言語学関係の国際会議等での発表等により発信していきたい。

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	600,000円	180,000円	780,000円
2008年度	500,000円	150,000円	650,000円
2009年度	800,000円	240,000円	1,040,000円
総計	1,900,000円	570,000円	2,470,000円

研究分野：第二言語習得論

科研費の分科・細目：日本語教育

キーワード：(1) 第二言語習得 (2) 学習者セオリー (3) ライフストーリー・インタビュー
 (4) アイデンティティ

1. 研究開始当初の背景

社会的・状況的観点による第二言語習得理論構築への関心が高まる中、特に1990年代半ば以降、この流れに沿う研究が急激に増加している。しかし、その多くは英語使用圏における英語学習者を対象とするものであり、日本語学習者や日本に在住する学習者を対象とするものはまだ数少ない。同時に、こうした流れは、ある事象を客観的・数量的に捉える定量的研究手法から、体験者自身の視点を重視し、その体験全体を前後の文脈の中で総合的に捉える定性的研究手法への関心をも促した。本研究では、上述の2つの流れを汲み、日本における日本語学習者に焦点をあてたライフストーリー法による研究を着想するに至った。

2. 研究の目的

本研究のねらいは、自然習得環境における日本語の第二言語習得過程を「学習者セオリー」という新たな切り口から捉え、異なる学習者の第二言語習得過程に影響する諸要因を明らかにし、状況論的観点から考察することにあつた。特に、個別的な学習者セオリーの記述はもとより、ライフストーリー・インタビュー法による長期的な変容過程に影響する諸要因を捉えるとともに、特定の状況下における言語運用と学習者セオリーの関係を理解することで、総じてこの問題をマクロとミクロの両面から捉えるべく研究を設計した。

3. 研究の方法

上述のねらいのもとに、異なる学習者を対象にライフストーリー・インタビューを実施した。まず、外国人留学生（大学生）のデータを収集したが、このうち、一部の学生を対

象に特定の状況下における言語運用データとフォローアップインタビューデータも合わせて収集した。次に、地域に在住する外国人学習者を対象にインタビューを実施するとともに、日本語支援にあたるボランティアへのインタビューデータも合わせて収集した。また、多様な学習環境における事例収集の一環として、海外留学中の日本人大学生にもインタビューを実施し、関連データを集めた。以上のデータに発見的手法による分析を加え、マクロとミクロの両面から学習者セオリーとその変容過程の記述を試み、その結果を総合しつつ、第二言語習得過程に影響する諸要因に状況論的観点からの考察を加えた。

4. 研究成果

以上の成果から、自然習得環境におかれる学習者の第二言語習得過程における目標言語アイデンティティの形成と言語使用の関係がより鮮明に明らかになった。

よりマクロなレベルでは、学習者セオリーは、目標言語の学習・使用過程におけるインタラクション経験に基づいて形成される目標言語アイデンティティと密接な関係にあること、それは母語と目標言語のアイデンティティの間で葛藤しながら変容していくこと、その葛藤の一反応として沈黙期を経験する学習者も少なからずいることが示唆された。

よりミクロなレベルでは、特定の状況下にある学習者の目標言語使用には、社会言語学的規範に関する学習者セオリーに基づく独自の言語使用規範が深く影響することが明らかになった。

さらに、本研究では、ライフストーリーの手法を用いることで、研究対象者の経験を総合的に対象者自身の観点から掌握する方法を試みた。この手法を通じて、第二言語習得を狭義の言語

処理過程ではなく、より広い通時的・共時的文脈の中で起こる個人の変容過程として捉え、従来のインプット-インタラクション-アウトプット型の心理言語学的モデルで欠落する側面を汲み取る新たなモデル構築への第一歩を築いた。

また、従来取り上げられることの少なかった日本語学習者や日本に在住する外国人学習者の生きた経験を掌握し、多様な第二言語習得過程の様相を浮き彫りにしたことも本研究の成果の一つといえるだろう。

以上の成果をまとめた研究論文を国内外の雑誌に公刊し、国際会議における口頭発表により公表した。また、国際雑誌への論文投稿の準備も進めているところである。特に、アメリカ及びイギリスの国際会議での発表を通じて、同様の課題に関心を持つ研究者とのネットワーク構築が可能となった。今後は、本研究の成果を国際的な共同研究の形で発展させ、国際的な出版物による公刊、応用言語学関係の国際会議等での発表等により発信していきたい。以上の活動を通して、本研究の成果をさらに国際的に多角的に発展させていく所存である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ① 海野多枝、鈴木綾乃 ‘Corpus-based analysis of lexical errors of advanced Japanese learners’ 2007 In Kawaguchi, Y., Takagaki, T., Tomimori, N., and Tsuruga, Y. (Eds.) *Corpus-Based Perspectives in Linguistics*. John Benjamins. pp.391- 409 (査読有)
- ② 海野多枝、小早川麻衣子 ‘Mitigation strategies in expressions of disagreement adopted by intermediate learners of Japanese’ 2009 In Kawaguchi, Y., M. Minegishi and J. Durand (Eds.) *Vol. I. Corpus Analysis and*

Variation in Linguistics, Amsterdam: John Benjamins. pp.379-392. (査読有)

- ③ 海野多枝 「第二言語習得における『沈黙期』: 状況論的観点からの再考」 2009 『コーパスに基づく言語学教育研究報告 3』(峰岸真琴、川口裕司編) 東京外国語大学大学院グローバルCOEプログラム「コーパスを基盤とする言語学教育研究拠点」 pp. 265-284.

[学会発表] (計11件)

- ① 海野多枝、小早川麻衣子 ‘Mitigation strategies in expressions of disagreement by intermediate learners of Japanese-an analysis of DCT data’ The First International Symposium of the Global COE Program Corpus-based Linguistics and Language Education (CbLLE) 2008.5.9.
- ② 海野多枝、JoAnn Phillion, 他8名 ‘Policy, Action and Theory: Cross-Cultural Experience of Ethnic Minority Students in the United States, Canada, Australia and Hong Kong’ 2009 American Educational Research Association (AERA) Annual Meeting, San Diego, USA. 2009.4.15. (査読有)
- ③ 海野多枝、東郷美香 「日本語ボランティアのビリーフに関するライフストーリー研究」第8回日本語教育国際研究大会、オーストラリア・アデレード大学 2009.7.14. (査読有)
- ④ 海野多枝 ‘Contextualising ‘silent period’ within life-stories of adult second language learners’ British Association for Applied Linguistics (BAAL) 42nd Annual Meeting, Newcastle University, UK. 2009.9.4. (査読有)

[図書] (計2件)

- ① 村田久美子・原田哲男編 (『コミュニケーショ能力育成再考—ヘンリー・ウィドウソンと日本の応用言語学・言語教育』ひつ

じ書房 (2008) (村田久美子、原田哲男、海野多枝、他 6 名との分担執筆、4 番目、担当部分P.79~P.101) 全 253 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

海野 多枝 (UMINO TAE)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：00251562